



## アストンマーティン Vantage GT3 カタールで世界選手権デビュー

### 鮮やかにダブル表彰台を獲得

- 新型 Vantage GT3 が 2 位・3 位フィニッシュ
- Heart of Racing は FIA WEC のチーム最高記録となる LMGT3 の 2 位を達成
- D'station Racing は、このデビュー戦にてフランス人ドライバーのクレメント・マテウとエルワン・バスタードの闘志あふれる走行で 3 位に返り咲く
- WEC の新しい GT クラスはライバルメーカーがしのぎを削る場に



2024 年 3 月 2 日、ドーハ:

本日、カタールのルサイル・インターナショナル・サーキットでは初開催となる待望の 2024 年 FIA 世界耐久選手権 (WEC) 開幕戦にて、新型アストンマーティン Vantage GT3 が初参戦を果たし、LMGT3 クラスで見事 ダブル表彰台フィニッシュを飾りました。

2024年新設のLMGT3クラスに出場した、米国を拠点とするHeart of Racingチームのイアン・ジェームス（英国）、ダニエル・マンチネリ（イタリア）、アレックス・リベラス（スペイン）は、カタル1812kmレースをリードし続けたものの、激闘の末に1位から惜しくも5秒遅れてのフィニッシュとなり世界舞台での初勝利を僅差で逃しました。

2位とはいえ、Heart of RacingにとってはWEC出場わずか5回目で達成した最高記録です。さらに、昨年11月のバーレーン8時間レースでの3位に続く、2回連続の表彰台獲得となりました。

新型Vantage GT3のエキサイティングなポテンシャルを誇示するかのようには、D'station Racingもレース後半の追い上げで3位に入り、バーレーンに続き2回連続の表彰台獲得を果たしました。今回WEC初参戦のフランスのクレメント・マテウとエルワン・バスタード、FIA世界耐久選手権チャンピオンに3度輝いたマルコ・ソーレンセン（デンマーク）がドライバーを務める日本のD'station Racingが完璧に報われる形となりました。

アストンマーティンの耐久モータースポーツ責任者、アダム・カーターは次のように述べています。「新型アストンマーティンVantage GT3が、競争力のあるレーシングカーとしても、あらゆるレベルのレーシングドライバーが最大のパフォーマンスを引き出せる車としても、大きなポテンシャルを持つことを浮き彫りにした、前途有望なスタートとなりました。WECに対しても、LMGT3クラスを導入した新フォーマットの成功を祝いたしたいと思います。激しい競争で見てたえのある観戦というだけでなく、ライバルメーカーが対等な立場で競うことのできる素晴らしい場となっています。次はイモラ戦ですが、この好調な開幕戦の結果を糧に、新型Vantageはまだ成績を伸ばせると確信を持っています。」

2台のVantage GT3はどちらもLMGT3クラスの5番手以内からスタートし、レース序盤で上位10台に入るポジションを確立しました。マテウは最初のスティントで3位にまで順位を上げています。

Heart of Racingのチーム代表でもあるジェームスは、合計3時間近い4スティント連続の目覚ましい走行で見せた堅調な走りでレース全般を支え、マンチネリに交代した後もチームはリード争いに残ることができました。リベラスは最初のスティントでライバルのポルシェに対してわずかながらもアドバンテージを稼ぐことができたものの、わずかなミスで再び集団に飲み込まれました。最終スティントで、リベラスはタイヤに負担のない走りと優れたエネルギーマネジメントで後方から果敢に攻め、トップと20秒差から5秒差まで縮めゴールしました。

レース後、ジェームスは「Heart of Racingと新型Vantage GT3にとって、素晴らしい日になった。」とコメントしました。「一日を通して勝利に向かって戦いを続け、最終的に2位を獲得でき、皆とても喜んでます。次は高ポイントを手に、イモラに臨みます。良い戦略でしたし、チーム全員がそれぞれの役割をしっかりと果たして、素晴らしい仕事をしてくれました。」

D'station Racingから初参戦した2人は両名とも見事な走行で、Vantageのドライバビリティを改めて見せつけました。マテウはWEC初出場の最初のスティントで高い競争力を発揮した

後、ピットで若干問題が発生し 10 位まで落ちましたが、その後の 3 ステントは安定した走行で上位争いができるポジションに食い込みました。バスタードは素晴らしく好調で、ミスもなく上位 5 位内に返り咲き、最終盤でソーレンセンが AMR での以前のチームメイトであるマキシム・マルタンとのスリリングな戦いを制して 3 位に入りました。

マルコ・ソーレンセンは次のようにコメントしました。「最高の気分です。シーズンを表彰台からスタートできるのは素晴らしいことです。レースでは小さなミスもありましたが、自分たちが達成したことに誇りを持っていいと思います。シーズン最初のレースで表彰台に上げられるとは誰も想像していなかったので、チーム全体のためにも非常にうれしい気持ちです。特に、WEC 最初のレースで大活躍したクレメントとエルワンに祝福の言葉を送りたいと思います。D'station Racing 777 号車は、出場車両の中で最も早い一台のように感じました。それは、新型アストンマーティン Vantage GT3 がどれほどのポテンシャルを持っているのかを、大きく物語っていると思います。イモラが本当に楽しみです。」

今回の WEC は 4 月 21 日のイモラ 6 時間レースへと戦いの場を移しますが、その前に、1 月にデイトナで行われた IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権の開幕戦にて Vantage GT3 の競技デビューを果たした Heart of Racing が、3 月 16 日の第二戦モビル 1 セブリング 12 時間レースに出場します。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。  
<https://we.tl/t-50YVpeVX9o>

#### **アストンマーティン・ラゴンダについて:**

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって 1913 年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、DBS、DBXに加え、同社初のハイパーカーである Valkyrie など、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green. サスティナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、アストンマーティン初の世界でもっともスリリングで魅力的なハイパフォーマンス・バッテリー式電気自動車の 2025 年発売を目指しています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴンダは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界 56 か国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造

されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴндаは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



[www.astonmartin.com/media](http://www.astonmartin.com/media)

メディア問い合わせ先：

Aston Martin Lagonda  
Head of Regional Marketing & Communications-Asia Pacific  
有澤 久美子

[kumiko.arisawa@astonmartin.com](mailto:kumiko.arisawa@astonmartin.com)

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 御園生資己：090-8063-7117

[astonmartin-pr@pjbc.co.jp](mailto:astonmartin-pr@pjbc.co.jp)